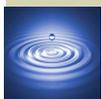


RIPPLE

[リップル] 2010 VOL. 0 創刊準備号

世界に届いた。



DEAR READERS!



photographed by Kensuke Yukawa

僕を含めて水面抵抗を愛する人達へ

とうとうこんなフリーペーパーまで造っちゃいましたよ。やれやれ。

写真は去年の全日本。そこで僕はバックフリップを一個決めて、シニアIIのトリックチャンピオンになったんです。凄いでしょ。いや、凄くなんかないか。

なにしろ昔見た夢「フリップを決めて全日本チャンピオンになる」っていうのをかなえるまでに30年もかかってしまったんですから、しかもシニアII。(笑)

このフリーペーパーは一昨年、元全日本チャンピオン岩崎(旧姓篠田)千絵さんに連れられて14年ぶりに全日本に復帰した僕を暖かく迎えてくれた選手のみなさん、そして役員のみなさんへの僕からのお礼です。

久しぶりの全日本の場では懐かしい顔ぶれがみんなで力を合わせて素晴らしくレベルの高い水上スキーの競技と大会運営を、琵琶湖の鏡のような水面で実施していました。そして長い間よく似た水上スポーツにうつつを抜かしていた僕を覚えてくれたばかりか、ライバルとして迎え入れてくれたうえに、多くのかたに昔の僕のささやかな水上スキーへの貢献を褒めていただき、また一緒にやりましょうよ、と誘ってさえいただきました。夢のようなことでした。

ところが、大きく進化を遂げた今の水上スキーの世界で僕は以前のようにジャッジをすることもできませんし、ドライバーのしかたもずいぶんかわってしまったようですし、昔のように出場する選手に関する多くの知識を持ってMCをすることなどとてもできません。

一方、残念なことに日本の水上スキーの世界では商業誌が成立したことは一度もありません。なにか僕にできないことがないものか、と考えてやっと思いついたのが、このようなフリーペーパーを造って出版してみる事だったんです。もしこの号を読んでもらって少しでも楽しんでいただけたら、ぜひ、感想を寄せていただけると嬉しいです。

sotaro@ibg.co.jp

できることなら引き続きこのような冊子を造り続けていけたら、と願っていますので、応援よろしくお願い致します。

(スポンサー募集中です!)

RIPPLE Editor : sotaro inoue



WATER SPORTS STYLE MAGAZINE RIPPLE

TOP REVEIW

SAAYA HIROSAWA

(廣澤沙綾)

005-007

MOOMBA photos

008-010

Long Long way to
MOOMBA

011-014

KASHIMA photos
Still on the same water

015-017

Advertisement 1B 広告のページ

・水素バイク

本冊子のタイトルRIPPLEは水面に広がる

「波紋」のことです。

鏡のような水面に投げた小さな波紋が、
どこまでも広がって行きますように。



廣澤 沙綾



TOP REVIEW

「日本人女性水上スキーヤーが海外のプロ大会で入賞する。」いつか、そんな夢のようなことが起こる日がくるのだろうか。あり得ない。無理。去年までだったら誰もがそう応えたのではないでしょう。ところが2010年3月8日。その夢のような事態が起こるのを、僕はこの眼で目撃してきました。ところはオーストラリア・メルボルン。かの有名なムーンバマスターズの子ジャンプ決勝の場で。予選6位だった廣澤沙綾はセミファイナルを5位で通過、ファイナルでも見事6位入賞を果たし、賞金をゲットしたんです。(金額? ささやかなものだったようです。) どんなことでも起こる

と強く思えば、ほんとに起こるんですね。

会場を歩いて行くとジャッジのひとりに声をかけられました。「日本人? サアヤの応援に来たのかい?」「どこかで会った人だなあ」と思ったら、以前秋田で行われたワールドゲームスの時に一緒にMCを務めたイギリス人ジャッジのかたでした。懐かしくその時のことを語りあいましたが、「サアヤは有名だよ。とてもよくやっているね。」といい印象を語ってくれました。

たったひとりで海外で戦い続ける事。それがどんなにたいへんなことか。僕は今回ムーンバに応援に行って一番強く感じたのはそ

のことです。とかく、彼女の環境を羨望のまなざしで見えるライバルもいることと思います。確かに彼女の水上スキー環境は日本一恵まれていると言えるでしょう。でも、そんな環境にさえすれば、誰でも世界で通用するスキーヤーになれるのか。その答えは絶対に「否」です。ほんとうに強くなければ、ほんとうに情熱がなければ、ほんとうに戦い続ける強い意志がなければ、ほんとうに才能がなければ、とっくに疲れ果ててしまいうちがいありません。たったの数日間彼女の戦いをみただけでも僕にはそのことがはっきりと伝わってきました。その沙綾の戦いぶりはこのあとのページでじっくりとご紹介します。



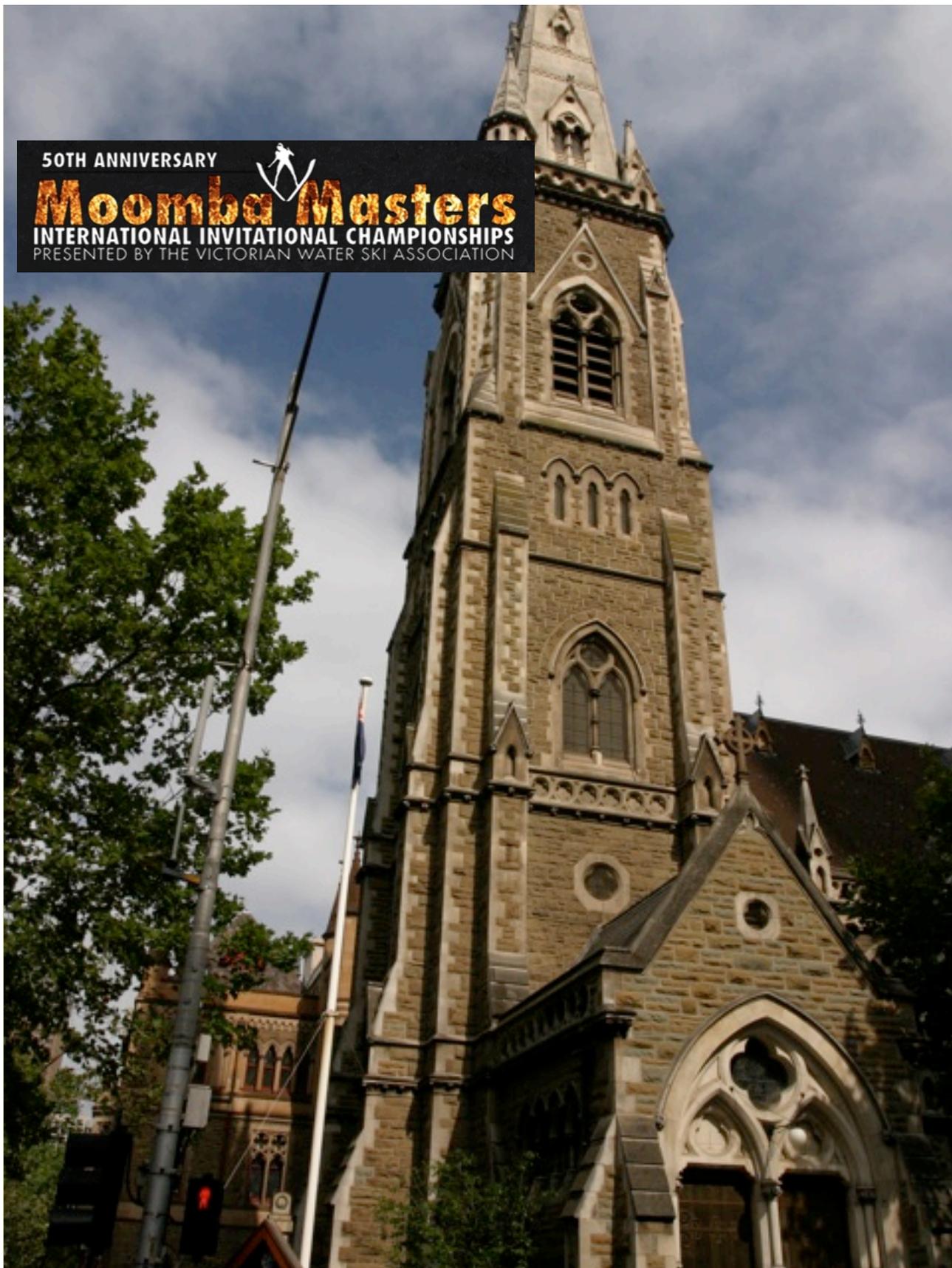
50TH ANNIVERSARY



Moomba Masters

INTERNATIONAL INVITATIONAL CHAMPIONSHIPS

PRESENTED BY THE VICTORIAN WATER SKI ASSOCIATION



日本の京都のような古都 メルボルン Melbourne

WATER SPORTS STYLE MAGAZINE **RIPPLE**

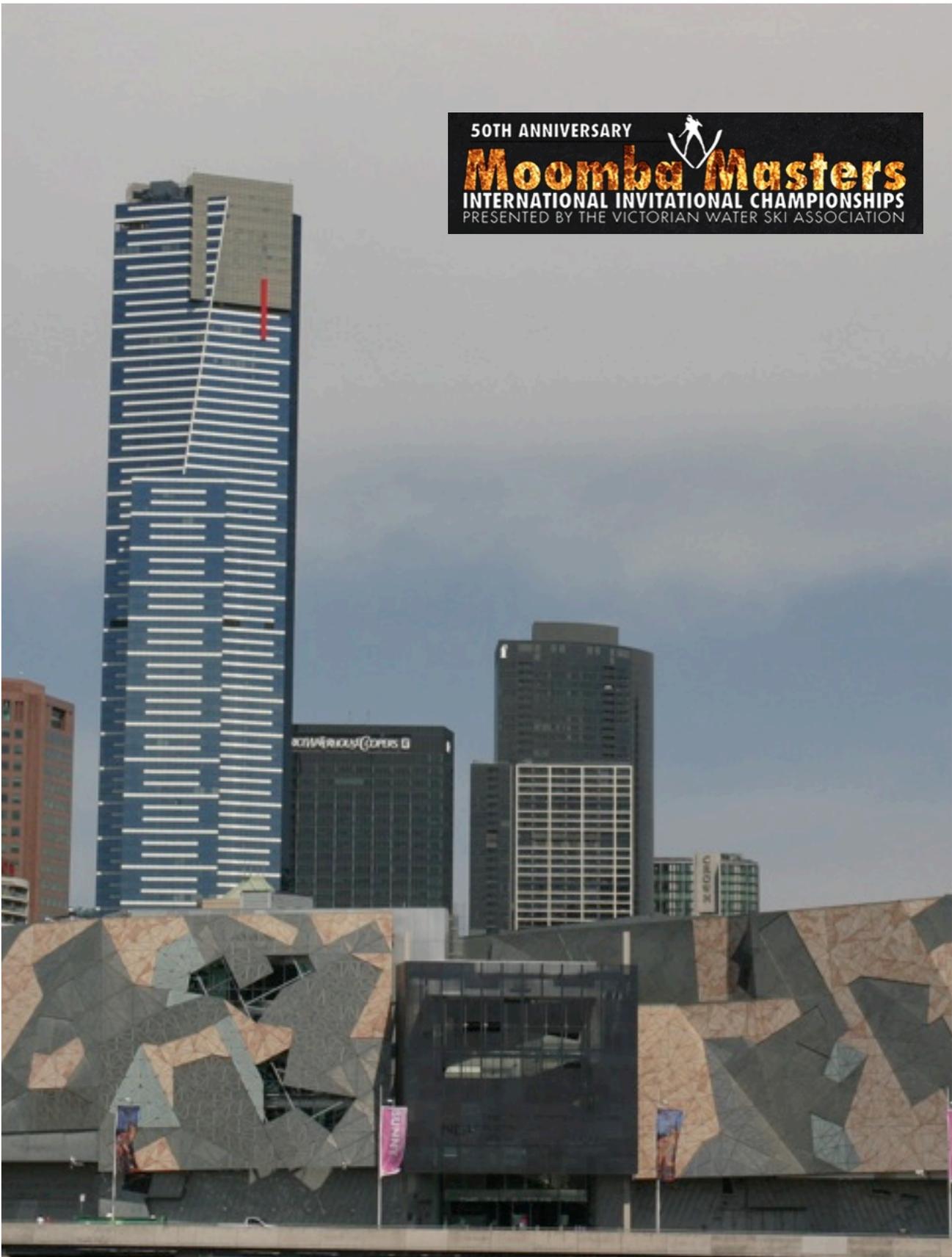


50TH ANNIVERSARY



Moomba Masters

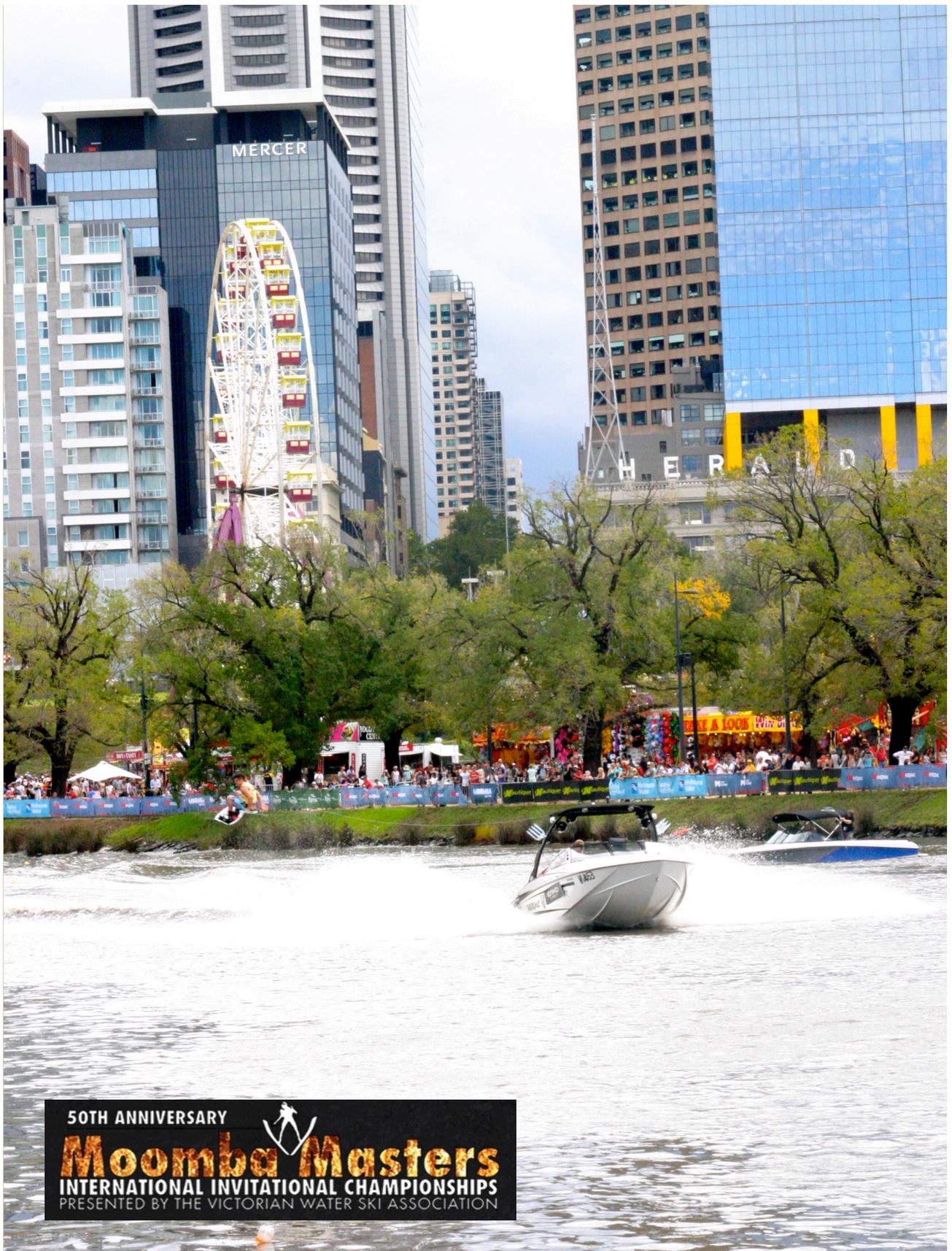
INTERNATIONAL INVITATIONAL CHAMPIONSHIPS
PRESENTED BY THE VICTORIAN WATER SKI ASSOCIATION



古都メルボルンは同時に活況を呈するオーストラリアの現在でもある。

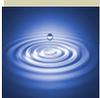


WATER SPORTS STYLE MAGAZINE **RIPPLE**



50TH ANNIVERSARY
Moomba Masters
INTERNATIONAL INVITATIONAL CHAMPIONSHIPS
PRESENTED BY THE VICTORIAN WATER SKI ASSOCIATION

メルボルンの街中を流れるヤラ川が会場となる。



WATER SPORTS STYLE MAGAZINE **RIPPLE**

50TH ANNIVERSARY
Moomba Masters
 INTERNATIONAL INVITATIONAL CHAMPIONSHIPS
 PRESENTED BY THE VICTORIAN WATER SKI ASSOCIATION



Long long way to MOOMBA

しては創刊準備号の特集としてこれに優るネタはあり得ないと判断し急遽海外現地取材を敢行したんです！

遠かったですねー、ムーンバ。ホテルからずーっと歩いて、、、ってそういう意味でも遠かったんですけど（笑）、なんていうのかなあ、日本の水上スキーがここまで来るまでの道のりって言う意味ですよ。そう言っていっくらい今回のムーンバは日本の水上スキーのひとつの到達点と言っていいようなできごとだったと思うんです。



ムーンバへの道のり

日本から南へ8,200km。行って来ましたメルボルン。そのメルボルンの中心を流れるヤラ川で行われたムーンバマスターズ。世界三大水上スキーイベントの一つと言われ、そ

の集客力の大きさでも知られる特別なイベントです。そして今年なんと50周年という歴史を誇る大会でもあります。その記念すべき大会に日本から廣澤沙綾選手が出場する。その情報を嗅ぎ付けたRIPPLE編集部と



WATER SPORTS STYLE MAGAZINE RIPPLE



50TH ANNIVERSARY
Moomba Masters
 INTERNATIONAL INVITATIONAL CHAMPIONSHIPS
 PRESENTED BY THE VICTORIAN WATER SKI ASSOCIATION

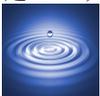


Long long way to MOOMBA



沙綾セミファイナル

予選を6位で通過した沙綾。セミファイナルには8人の女子選手が出場していました。ファイナルには6位までが出場でき、同じく6位までが表彰されるとのこと。このまま順位を維持することができれば、夢の表彰台です。つまりこのセミファイナルを通過できれば、表彰台も確定ということになります。



す！そしていよいよ始まった沙綾のセミファイナル。

沙綾一本目、40mに届かず38.4m。うわ、どうしたことか、なんか甘いし元気ない感じ。苦しい展開。この距離では決勝進出は無理。

ところが、2本目は思い切ってタイミングをつめてきた。少し急い

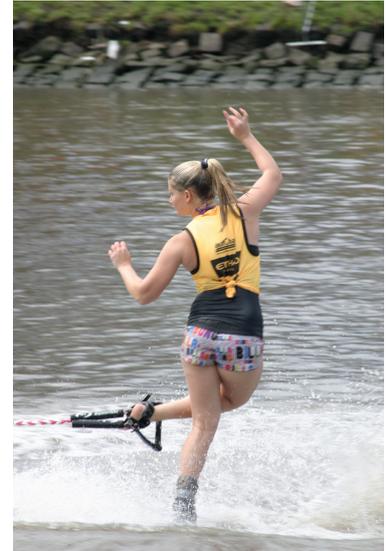
で板を回すと、ロープが弛む！でも、そこから落ちていて台前をコントロールして、ランプワーク。当たったー！よあ〜〜し！！飛型も美しい。

いっきに伸びました！飛距離は、44.8m！！先ほどのふたりの距離を超えています。これで最悪でも6位が確定、ファイナル出場決定です。3本目はまた少し甘くなって42.9m、でもきれいなジャンプ。

予選よりも一つ順位を上げて5位で通過ですよ！やるねー。あとで聞いたら、2本目はかなり風に押されてつまったらしい。確かに強い風が吹いたり止まったりしていました。でも、それに負けなかった！

それにしても終わってみれば見事に順位を5位に上げてのファイナル進出です。

沙綾にだけはアドバイスをくれるコーチも、支えてくれる仲間も、応援してくれる同国人さえいない。



Long long way to MOOMBA

沙綾、飛躍の秘密とは

こうして沙綾はファイナルに出場、ファイナルでは6位となり見事海外のプロツアーで入賞・賞金獲得という日本人スキーマーとして初の壮業を成し遂げました。

いままでだれも近くまでもたどりついたこともない結果。体格的に特別なものを持っているとも思えない沙綾をなにがそこまで導いて行ったのでしょうか。話しをしているとごくフツウのかわいらしいおんなのこ。日焼けしているとは言え、笑顔からは世界の頂点でしかもジャンプ競技でわたりあうトップアスリートの姿は想像もつきません。

どうしても彼女の飛躍の理由が知りたくなった僕は後日、あらためて時間をとってもらって2時間に及ぶロングインタビューをさせてもらいました。もともと自分がスポーツに向いていることには気がついていたというんです。ただそれまではひとつのことをやり遂げたことがなかった。大学に入ったら、なにかをやり抜こうと思っていたと言うんですね。そして大学で誰もがスタートラインが同じである水上スキーをみつけて入部。ただちに他の大学の過

去の成績もすべて調べて各学年でどれだけの成績を出し、最終的に学生チャンピオンになるまでの計画を立てた、といいます。このことは聞いたことがあるかたも多いでしょう。確かにその意思は凄いものです。計画性も素晴らしい。だからと言って、ただ、それだけで誰もが

沙綾のように計画通り成果を残すことができるものなのでしょう。学生水上スキーでチャンピオンになりたい。そう思ったものは今までにだってどれだけでもいたことでしょう。その誰もが沙綾ほどの結果を出すことができたわけではありません。まして、学生水上スキーを終えた後にも、これほどまでの活躍を続けているものは誰一人いないんです。

頂に立つ孤独

今回ムンバの地で、会場にいた日本人は僕を含めて3人だけでした。沙綾と僕、他にはジャッジを務められた山口さんだけです。

山口さんの存在はとても頼もしいと沙綾は言います。そうは言っても当然ながら大会中に公平たるべきジャッジのかたから特別なサポートを受けられるはずもありません。

出走前のスターティングドックには選手のコーチや友人が風向きや水面の状況などドックにいてはわからない様々な情報をもって駆けつけていきます。



他の国の選手達には全員にそのようなサポーターの姿をみかけました。それは水上スキー仲間や専属のコーチ、多くの場合はボーイフレンドだったりもします。でも、沙綾のところにはそのような

情報が届きません。顔見知りのスキーマーなどからアドバイスが得られることはあるようですが、それもほんとうに沙綾の成績を少しでも向上させるために用意された情報であるはずはありません。水上スキーのトップ選手にとってこのディスアド



50TH ANNIVERSARY
Moomba Masters
 INTERNATIONAL INVITATIONAL CHAMPIONSHIPS
 PRESENTED BY THE VICTORIAN WATER SKI ASSOCIATION

いたんだ！ 今回僕が痛切に感じたのはそういうことでした。がんばれ、そしてありがとう、廣澤沙綾！

沙綾オフィシャルblog

<http://ameblo.jp/saayahirosawa/>

バンテージは計り知れないでしょう。

「そうか、沙綾はほんとうに強いんだ。」

廣澤沙綾の躍進の理由についての僕のきわめて平凡な結論はこのことです。特殊な能力やなにか変わった秘訣があるわけではない。



単身海外で長期間キャンプを行い、休む間も無く移動をして大会に出場、そこでも今回のように大きな大会ですら誰の支えもなく戦わなくてはならない廣澤沙綾の置かれている状況。ひとは彼女の境遇を「恵まれている」と思うかもしれないけれど、そんな生易しいものじゃないな、ということを今回僕は強く感じました。いくら水上スキーに高い目標を置いてそこに向けて献身しているとはいえ、並の人間に、いやヒトのことはわからないけど、とても僕なんかじゃあんな孤独には耐えられない。

沙綾はそんな生き方を自ら選んで、遠い海外でほんとうにたったひとりで戦い続けてここまでたどり着



*その後、2010年夏、廣澤沙綾はジャンプのレコードを47.7mにまで伸ばし、エリートスキーヤーランキングも現在12位という。

秋には全日本に出場後、AA大会連覇を狙う。

多くのかたからのメールなどでの励ましは、ほんとうに支えになると沙綾は言います。





Still on the same water 2010

WATER SPORTS STYLE MAGAZINE **RIPPLE**





Still on the same water 2010

WATER SPORTS STYLE MAGAZINE **RIPPLE**





Still on the same water 2010

WATER SPORTS STYLE MAGAZINE **RIPPLE**





Still on the same water 2010

WATER SPORTS STYLE MAGAZINE **RIPPLE**





明治学院大学体育会モーターボート水上スキー部
現在部員10名、茨城県常陸利根川（通称鹿島）に
て練習を続ける。鹿島開設32年を経て、僕の夢
を継ぐ者達。

blog:<http://blogs.yahoo.co.jp/mgwsc522/folder/1331261.html>

Still on the same water 2010

WATER SPORTS STYLE MAGAZINE RIPPLE





SOTARO's WSS

Towing Service for WaterSki & Wakeboard

URL:<http://www.ibg.co.jp/~sotaros/>



PROSHOP スキーボートのエンジン修理も

Inoue Boring



WATER SPORTS STYLE MAGAZINE RIPPLE



究極のエコバイクを造りたい。

ハイブリッドはもとより電気自動車よりも燃料電池車よりもエコな乗り物とは?! IBの水素バイクは既存の2ストロークエンジンのバイクを水素燃焼式に改造することで、バイクの製作の段階でもバイクを走らせる段階でもCO2を発生しません!これ以上にエコな乗り物はあり得ないはずです。

軽くて、シンプルで、安く造れて、力が強く、出力特性が面白い。バイクのような乗り物には最適のそんな2ストロークエンジンが、排気が汚いばかりに絶滅しようとしています。なんとかして、排気のきれいな2ストロークエンジンを造る事はできないのだろうか。IBの水素バイク開発はそんな素朴な情熱がスタートでした。開発を始めて見ると、2ストロークエンジンが意外にも水素燃焼に適しているという驚くような事実が次々に確認されていったのです! 開発の過程は下記のブログカテ

ゴリーで、失敗も含めて詳しくレポートされています。

(株) 井上ボーリングブログ
カテゴリー「水素バイク」

<http://ibg.seesaa.net/category/222400-1.html>

上の写真がYAMAHA
TY250Sベースの1号機。

下の写真が現在開発中の2号機です。2号機ではベースにSUZUKI RG125Γを選び、2ストロークらしい胸のすくような加速を体感できるまで、開発を進めたいと思います。水素の積載にはイワタニ様のご協力を得て、水素吸蔵合金を搭載予定です。

さらに3号機ではHONDA

JYRO-CANOPYをベースに低コストで全天候型の実用的な乗り物を製作することを計画しています。

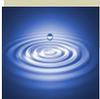
いずれはスキーボードも水素エンジンに!





2009 イベント 小江戸フリージャムにて

WATER SPORTS STYLE MAGAZINE RIPPLE





WATER SPORTS STYLE MAGAZINE
RIPPLE